

事務事業名	市慰霊祭開催事業 ☐ 実施計画事業		所属部局	保健福祉部		単位番号	5004				
			所属課室	福祉課		課長名	野呂瀬毅明				
			所属担当	地域福祉		担当者名	中込裕也				
基本政策	基本計画体系	IV 快適で心のかよいあう都市づくり	予算科目	会計	名称	款	項	目	細目	細々目	
政 策		17 社会福祉の充実	事業区分	01	一般	03	01	01	02	05	
施策		27 地域福祉の充実		☐ 国の制度による義務的事業 ☐ 施設等維持管理事業							
事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始年度 年度)	法令根拠		☐ 県の制度による義務的事業 ☐ 補助金交付事業							
	☐ 期間限定複数年度 (年度)			☐ 市の制度による義務的事業 ☒ その他の事業							
			☐ 義務化されている協議会等の負担金								
事務事業の概要	事業の内容・・・期間限定複数年度事業は次年度以降3年間の計画内容も記載 戦争で亡くなった市民に対して慰霊をし、恒久平和を願う。 合併前は各市町村で慰霊祭の開催年度が違っていた。合併後、毎年開催している。			事業費の主な内訳 (22年度)							
				項目(細節)	金額(千円)	項目(細節)	金額(千円)				
				その他報償費	20						
				消耗品費	202						
				その他借上げ料	300						
			計				522				

1 現状把握(DO)

(1) 事務事業の目的と目標

① 活動	
22年度活動実績	平成22年度は2月26日に開催
23年度活動予定	平成23年度は2月25日に開催
② 対象(この事務事業は誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等	
市民	
③ 意図(この事務事業により対象をどのような状態にしていのか、どのように変えるのか)	
戦没者の霊を慰めることにより、戦没者の家族の心を癒すと共に平和の大切さを他の人々と共有する	
④ 上位目的(どのような結果に結び付けるのか)	
住民の平和意識を高める	

⇒	⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標) 数字は記入しない
	名称 単位
⇒	ア 慰霊祭参加人数 人
⇒	イ 人口 人
⇒	ウ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標) 数字は記入しない
	名称 単位
⇒	ア 慰霊祭参加して満足と答えた人の任数 人
⇒	イ 平和と感じている人の人数 %

(2) 事業費・指標の推移			単位	21年度 (決算・実績)	22年度 (決算見込・実績)	23年度 (予算・目標)	24年度 (次年度計画・目標)	25年度 (計画・目標)	26年度 (計画・目標)	最終年度 (トータルコスト・目標)	
年間トータルコスト	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円							
			県支出金	千円							
			地方債	千円							
			その他	千円							
			一般財源	千円	513	522	538	538	538	538	
		事業費計 (A)	千円	513	522	538	538	538	538	0	
	人件費		正規職員従事人数	人	12	12	12	12	12	12	
			延べ業務時間	時間	125	125	125	125	125	125	
			人件費計 (B)	千円	558	558	495	495	495	495	0
			(A)+(B)	千円	1,071	1,080	1,033	1,033	1,033	1,033	0
活動指標		アイ	人	300.0	300.0	300.0	300.0	300.0	300.0		
		ウ									
対象指標		アイ	人	72,869.0	73,014.0	72,854.0	72,854.0	72,854.0	72,854.0		
		ウ									
成果指標		アイ	人								
		ウ									
上位成果指標		アイ	%								
		ウ									

(3) この事務事業を取り巻く状況(対象者・社会状況等)の変化、市民意見等

① この事務事業はいつ頃どんな経緯で開始されたのか？	合併前の旧町村単位において戦没者を追悼するために始められた。
② 事務事業を取り巻く状況は開始時または5年前と比べてどう変化しているか？また、今後の予測は？	戦後66年が経過し、戦没者遺族も代が代わり遺族会員も減少してきているが、遺族会からは開催の継続を要望されている。しかし、会員が高齢化しており遺族という意識も薄れている実情がある。
③ 事務事業に対して関係者(市民、事業対象者、議会等)からどんな意見・要望が寄せられているか？	市の遺族会からは、市の慰霊祭の開催は継続してほしい強い要望がある。

(4) 改革改善の取り組み状況

① 改革改善の取り組み実施は？	☐ 取り組みしている ⇒【内容！】 ☒ 取り組みしていない ⇒【理由！】
② これまでの改革改善の取り組み状況・経過(取り組みしていない場合はその理由)	開催を毎年ではなく、隔年や3年に一度等に変更するなど事務局では検討しているが、遺族会からは開催の強い要望があるため取り組めていない状況。 また、戦没者を追悼することは多くの市民へ向けた平和意識の高揚につながるため。
③ H 22年度に実施した改革改善の内容	出席者は、遺族会員を対象にしていたが、会員になっていないお孫さん等の若い世代にも出席できるように案内を出した。

事務事業名	市慰霊祭開催事業	所属部	保健福祉部	所属課	福祉課
-------	----------	-----	-------	-----	-----

2 評価(Check1)担当者による事後評価(複数年度事業は途中評価)

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系の施策に結びつき、貢献しているか？意図が上位目的に結びついているか？	☐ 結びついていない(見直し余地がある) ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 結びついている ⇒【理由↓】 遺族の方々や戦没者を慰霊することは、精神的に慰められる。また市民にとっても平和であり続けることの大切さを知ること に結びつく。また地域福祉の充実に繋がる。
	②公共関与の妥当性 この事務事業を税金を投入して市が行わなければならないのか？民間やNPOに委ねることは可能か？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 妥当である ⇒【理由↓】 市として戦没者に対して哀悼の意を示すため、また平和を誓うために開催することは、行政として関与する必要があると思う。
	③維持・継続の妥当性 現状の対象と意図、成果から考えて、この事務事業を将来にわたり、維持・継続していくことは妥当か？目的や事業の必要性を見直す余地はあるか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 適切である ⇒【理由↓】 現在対象は遺族の関係者が主であるが、高齢化などにより減少傾向にあり、今後は遺族として意識も薄れていく傾向にある。この事業は恒久平和を祈るもので維持継続していくことは妥当である。しかしながら、先述したような課題があり、その課題をどのように解決していくか検討の余地がある。
有効性 評価	④成果の向上余地 事務事業のやり方・進め方を変えることで成果を向上させることはできるか？できない場合は何が原因でできないのか？	☐ 向上余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 向上余地がない ⇒【理由↓】 戦没者慰霊祭を多くの市民に知っていただく為に、出席対象者の見直しの検討や、TV中継等をおこなうことで、恒久平和を多くの市民に訴えることで成果の向上が図れると思う。
	⑤類似事業との統合・連携の可能性 類似した目的を持つ事務事業が他にあるか？類似事務事業がある場合、その事務事業との統合や連携を図ることはできるか？	☐ 類似事務事業がある ⇒(類似する事務事業の名称を記入！) ☐ 統合・連携ができる ⇒【理由と具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☐ 統合・連携ができない ⇒【理由↓】 山梨県においても毎年度慰霊祭を実施しており、参列者についても遺族会員であるため市慰霊祭を隔年での開催を検討 ☒ 類似事務事業がない
	⑥休止・廃止した時の影響及び休止・廃止の可能性 この事務事業を休止・廃止した場合影響はあるか？また成果から考えて、休止・廃止することはできるか？	☐ 影響なし ☒ 影響あり ⇒【理由と影響の内容↓】 戦争に対する意識の変化があり、市民が戦争・平和について考えるひとつのきっかけになっていると思うので影響はあると考えられる。 ☐ 休止・廃止ができる ☒ 休止・廃止できない ⇒【理由↓】 国および県においても戦没者の追悼式は開催されており、戦没者を慰霊し平和の大切さを伝えていくことは、必要なことであり休止・廃止は出来ない
効率性 評価	⑦事業費の削減余地 成果を下げずに事業費(コスト)を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	☐ 削減余地がある ⇒【理由・具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由↓】 予算の内容が献花の生花代やお供物代及び祭壇借り上げ料などであるので削減の余地はないが、県慰霊祭と関係で隔年度等での開催ができれば、削減の余地はある。
	⑧人件費の削減余地 成果を下げずに人件費を削減できないか？(事業のやり方の見直しによる業務時間の削減や臨時職員対応や外部委託による削減はできるか？)	☐ 削減余地がある ⇒【理由・具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由↓】 最小限の職員体制でおこなっているためこれ以上の削減の余地はないが、隔年度等での開催になれば削減につながる。
公平性 評価	⑨受益機会・受益者負担の適正化余地 事務事業の内容が一部の受益者に偏っていないか？受益者負担を見直す必要はないか？公平公正か？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由・具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 公平・公正である ⇒【理由↓】 市が開催する追悼の式であるので受益負担を求めるものではない

3 評価(Check2)担当課管理者による評価結果と総括

(1) 1次評価者としての評価結果	(2) 1次評価の総括(事務事業を実施した結果を振り返り気づいたこと、課題、今後の方向性等について)
① 目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり	慰霊祭参加者は、遺族会員であり平成22年度は会員以外のお孫さん等へ対象を広げたが、参加者は例年どおりといった感じであった。 慰霊祭を行うことは、英霊への追悼という意味では維持継続していくことは必要であるが、戦争と平和を考えることは、別の事業等でできるのではないかと、今後検討していく必要がある。 また、県慰霊祭の開催が毎年度あるため、市慰霊祭については隔年度等の開催にすることにより経費等の削減ができると思う。
② 有効性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり	
③ 効率性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり	
④ 公平性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり	

4 今後の方向性(事務事業担当課案)(PLAN)

(1) 今後の事務事業の方向性(Check1の結果から定める)・・・複数選択可		(3) 改革・改善による方向性																						
☐ 廃止(目的妥当性①、②、③の結果) ☐ 事業統合・連携(有効性⑤の結果) ☐ 公平性改善(公平性⑨の結果) ☐ 休止(目的妥当性①、②、③の結果) ☐ 成果向上(有効性④の結果) ☒ 現状維持(全評価項目で適切) ☐ 必要性検討(目的妥当性①、②、③の結果) ☐ コスト削減(効率性⑦、⑧の結果)		<table><tr><th colspan="2" rowspan="2"></th><th colspan="3">コスト水準</th></tr><tr><th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr><tr><th rowspan="3">成果水準</th><th>向上</th><td>☐</td><td>☐</td><td>☐</td></tr><tr><th>維持</th><td>☐</td><td>☒</td><td></td></tr><tr><th>低下</th><td>☐</td><td></td><td></td></tr></table> ※ 廃止・休止の場合は記入不要				コスト水準			削減	維持	増加	成果水準	向上	☐	☐	☐	維持	☐	☒		低下	☐		
		コスト水準																						
		削減	維持	増加																				
成果水準	向上	☐	☐	☐																				
	維持	☐	☒																					
	低下	☐																						
(2) 改革改善案について		(5) 事務事業優先度評価結果																						
①開催年度を毎年か隔年や3年に1度に開催する(70回の節目の年度を目標に)		成果優先度評価結果																						
②		⑨																						
③																								
(4) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策		コスト削減優先度評価結果																						
①遺族会の同意を得ることが必要で、遺族会との話し合い		⑥																						
②																								
③																								